


- 
- 6 ところが今、テモテがあなたがたのところから私たちのもとに帰って来て、あなたがたの信仰と愛について良い知らせを伝えてくれました。また、あなたがたが私たちのことを、いつも好意をもって思い起こし、私たちがあなたがたに会いたいと思っているように、あなたがたも私たちに会いたがっていることを知らせてくれました。
- 7 こういうわけで、兄弟たち。私たちはあらゆる苦悩と苦難のうちでありながら、あなたがたのことで慰めを受けました。
- 8 あなたがたの信仰による慰めです。あなたがたが主であって堅く立っているなら、今、私たちの心は生き返るからです。
- 9 あなたがたのことで、どれほどの感謝を神におさげできるでしょうか。神の御前であなたがたのことを喜んでいる、そのすべての喜びのゆえに。
- 10 私たちは、あなたがたの顔を見て、あなたがたの信仰で不足しているものを補うことができるようにと、夜昼、熱心に祈っています。
- 11 どうか、私たちの父である神ご自身と、私たちの主イエスが、私たちの道を開いて、あなたがたのところに行かせてくださいますように。
- 12 私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いに対する愛を、またすべての人に対する愛を、主が豊かにし、あふれさせてくださいますように。
- 13 そして、あなたがたの心を強めて、私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒たちとともに来られるときに、私たちの父である神の御前で、聖であり、責められるところのない者としてくださいますように。アーメン。


\* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



「 テサロニケ再訪の願い 」

| 1テサロニケ講解④ テサロニケ人への手紙第一 2 : 17~3 : 13 小野寺 望 牧

【 テサロニケ人への手紙第一 2章 】

- 
- 17 兄弟たち。私たちは、しばらくの間あなたがたから引き離されていました。といっても、顔を見ないだけで、心が離れていたわけではありません。そのため、あなたがたの顔を見たいと、なおいっそう切望しました。
- 18 それで私たちは、あなたがたのところに行こうとしました。私パウロは何度も行こうとしました。しかし、サタンが私たちを妨げたのです。
- 19 私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのは、いったいどれでしょうか。
- 20 あなたがたではありませんか。あなたがたこそ私たちの栄光であり、喜びなのです。
- 1 そこで、私たちはもはや耐えきれなくなり、私たちだけがアテネに残ることにして、
- 2 私たちの兄弟であり、キリストの福音を伝える神の同労者であるテモテを遣わしたのです。あなたがたを信仰において強め励まし、
- 3 このような苦難の中にあっても、だれも動揺することがないようにするためでした。あなたがた自身が知っているとおりに、私たちはこのような苦難にあうように定められているのです。
- 4 あなたがたのところに行ったとき、私たちは前もって、苦難にあうようになっておいたのですが、あなたがたが知っているとおりに、それは事実となりました。
- 5 そういって、私ももはや耐えられなくなって、あなたがたの信仰の様子を知るために、テモテを遣わしたのです。それは、誘惑する者があなたがたを誘惑して、私たちの労苦が無駄にならないようにするためでした。

(4ページへ続く)

## ◆ はじめに

1.パウロの愛と祈りに学ぶ

### ◆アウトライン：パウロとテサロニケ教会の関わり・個人的内容（1:2～3:13）

A.感謝の言葉（1：2～10）

B.テサロニケでのパウロの宣教（2：1～16）

C.テサロニケ再訪の願い（2：17～3：13） ※教会の誕生・政党・確立とも言える。

## ◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

### | 苦難の本質と神への祈り

\*このメッセージは、パウロの体験から苦難の意味と対処法を学ぶものである。

## I パウロの心配（2章16節～3章5節）

### 1.再訪を求める思い

(1) パウロ一行は深い悲しみに落ちた。

①一行がテサロニケの町を去って後、信者たちに何があったか。

②町を追い出される形で、霊の子である彼らと引き離された影響。

(2) 場所が離れていても、主イエスにあって心は一つ

\*この離別は肉体的なものであり、心までは引き離されない。

### 2.再訪を妨げようとする力

(1) パウロはテサロニケに行こうとしたが、一度ならず二度までも妨げられた。

(2) これはサタン（悪魔）の妨げである：おそらく民衆の暴動を指している。

(3) パウロの思い：主の再臨の日までに、彼らの信仰の完成を確信していた。

①彼らの救いの完成は、パウロにとっては喜びであり、誉れである。

\*聖書は悪魔について一貫して実在すると教えており、それは霊的世界（エペ2：1～3など）、物質世界（2コリ12：7～10）どちらにも影響し得る。

### 3.テモテの派遣

(1) 試練の中にある彼らを励ますために、テモテを派遣した。

\*テモテはパウロに一番弟子であり、また神にあっての同労者である。

(2) 患難の中で、サタンの誘惑に陥り、信仰をなくすことを心配している。

①クリスチャンはキリストの故に、試練にあうのは当然である。

②もし、苦難が用意されているならば、祝福をもたらすためにそうしておられる。

③苦難は信仰によって受け止め、忍耐を働かせて勝利すべきである。

## II テモテの良き便り（6～10節）

### 1.テモテの帰還

(1) 試練（広い視野では光と闇の闘い）の中で神の恵みと摂理により頼む。

(2) 信者同士が互いの重荷を支え合い、一人では成し得ない奉仕を実現する。

(3) 神の同労者の働きが、他の奉仕者の働きに益をもたらす連携。

### 2.慰めを受けた理由 ～悪魔的な力への勝利の便り

(1) テサロニケの信者は試練の中でも揺らぐことなく、堅く信仰に立っている。

(2) 信者となって間もなく、幼い彼らが守られているのは神の恵み。

(3) テサロニケの信者たちは、神を愛し、神が送った指導者を愛していた。

### 3.神への感謝と祈り ～速やかな応答

(1) 彼は神に捧げる感謝のこぼれを思案している。

①この祝福への感謝を言い表す言葉が見つからないくらいの喜び

(2) テサロニケの信者のために執りなしの祈りを捧げる。

①テサロニケ伝道の心残りを告白（時間をかけて福音の全貌を伝えられなかった）

②再会が叶い、彼らの信仰を励ますことができるように。

## III イエスへの3つの祈り（11～13節）

(1) 道が開かれるように

\*第三次旅行でアジア各地を回った際、テサロニケ人アリスタルコとセクンドが同行。  
使20：4～5

(2) 彼らの愛が増し加わるように

①自分たちは彼らを愛していることを確認してからこの祈りを捧げる。

②信者同士の間に、愛が増し加わるように

③「すべての人」（教会以外の人々、未信者）への愛が増し加わるように

\*滅びゆく魂への重荷は、ここから出る。

(3) 彼らの心が強められるように

①「心を強める」は神にあって。それは神と人への奉仕を可能にする力。

②この祈りは、主イエスの再臨（携拳・空中再臨）を前提としている。

## ◆まとめ：苦難の本質と神への祈り

### 1.苦難や試練の本質

(1) 苦難は罪や不信仰の結果与えられるものである。

(2) 苦難は信者のために用意された神の計画の一部でもある。

(3) 苦難を通して、群れ全体を神への回帰に導く場合もある。

（自己の信仰を振り返る。兄弟への愛を深め、執りなしに導くなど・・・）

### 2.祈りの本質

(1) 神を思い通りに動かすことではなく、私たちが神の御心に近づくこと。

